

ひたひた

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ通信紙 2015年 初冬号

高校の授業でタンチョウの講師を務めています

サンクチュアリでは今年度、鶴居村に隣接する標茶町の標茶高校でタンチョウの授業を行っています。標茶町では近年タンチョウの生息数が増えており、地元の高校生に興味関心を深めてもらおうと企画しました。2年生の選択科目「自然ガイド」で、年間70時間のうち4回の授業と実習を担当しています。



1回目の授業

第1回目の授業(5/11)では、導入としてタンチョウの生態等の紹介と彼らの食べ物について考えてもらいました。2回目(10/24)は、タンチョウと人の関係を知るために1日



農家の方から話を聞く高校生

かけての野外実習を行いました。牧場で農家の方に話を聞いたり、牛の飼料用デントコーン畑の刈跡で餌を採る数十羽のタンチョウを観察した他、釧路市動物園で傷病のため保護されたタンチョウを見学し、獣医師から説明を受けました。



刈取後のデントコーン畑のタンチョウ

農家の方は、牧場内に入りこみ牛舎や堆肥置場で餌を採るタンチョウについて「もう野生じゃなくなってる。でも今はいるのが当たり前で、いなくなると寂しいかな」と話してくれました。動物園では、2000年代以降に収容件数が増え、毎年半数は電線衝突や交通事故、列車衝突であること等を教わりました。

生徒達からは「今まで身近すぎてあまり興味がなかったが、これからはタンチョウと人の関係をもっと調べてみたくなった」等の感想がありました。今後は12月の3回目の授業でガイドの準備をして、4回目となる2月に、鶴居村の給餌場で観光客にガイド実習を行う予定です。生徒達が授業や実習で感じたタンチョウのことを、自分達の言葉で伝えてもらえれば嬉しいです。(原田)

特集 地元企業や子供達と 冬期自然採食地整備

サンクチュアリでは、これまでタンチョウが自然の中で天然の餌を採れる「冬期自然採食地」を、村内15か所に創出してきました。現在は、これまでに整備してきた場所の維持管理作業を行っています。また、作業も全国各地からのボランティアに加え、新たに村内の方々にもご協力をいただけるようになりました。今年、様々な人達とこれまでに実施してきた冬期自然採食地の管理作業について、報告します。

クレインズ+ボランティア+鶴居っ子

7月11日、旧雪裡川2号採食地を整備しました。釧路の実業団アイスホッケーチーム「日本製紙クレインズ」と募集で集まったボランティアのみなさんに加え、今回はじめて、鶴居村の「サルルンガード」の子どもたちも参加しての作業になりました。サルルンガードは村の自然や産業について体験しながら学ぶグループです。暑い中での作業でしたが、力を合わせタンチョウが出入りできる開けた空間に戻すことができました。選手や子供達の「みんなで作った食事場所をたくさん使ってね」という思いが、タンチョウ達に伝わるとを願わずにはられません。その後、サルルンガードの子どもたちは、自分たちの活動の中で自然採食地にどんな生き物がいるのかも調べてくれました。エゾイワナやトビケラなどの様々な生物を確認でき、冬にタンチョウが訪れるのか、子供達の興味はさらに高まりました。 ※調査は関係機関の許可を得て実施し、採集した生物は終了後に放流しました。



やっと切れた！



総勢20人で作業を行いました

学生ボランティア+インターン

8月には、中雪裡2号採食地とサンクチュアリ1号採食地を整備しました。作業は、インターンで滞在中の中国からの留学生とF.A.ネットワークの学生とで行いました。学生達は、泥で足元をとられるなど慣れない環境での作業に苦戦したようです。しかし、作業を

通じて、「湿地での作業は、思うように身体を動かすことができず、強く印象に残った」、「茂った林を見て、持続的に自然環境を維持管理していく必要性を学べた」と、環境を維持していく必要性と、大変さが伝わったようです。



中雪裡 2号採食地での整備



作業後の風景はライブカメラで見られます

地元企業

10月29日、中雪裡5号採食地を整備しました。この活動は、村内の建設会社「佐々木建設」のCSR(社会貢献活動)で行われました。企業のCSR活動での作業という新たな試みで、6名の社員がボランティアで作業に参加してくださいました。チェーンソーでの伐採や草刈り機での除草は手早く、みるみるうちに開けた空間に戻っていきます。レンジャー一達は、作業の早さや正確なプロの仕事に驚かされました。そのおかげで作業ははかどり、当初の予定より早く終了しました。作業の手早さや進め方など、今後のために大変参考になりました。



作業はすいすい進みました



整備した場所をバックに記念撮影

今年も多くの方の協力により、冬期自然採食地の管理作業を進めることができました。中でも、地元の方に協力をいただき、身近なタンチョウの暮らしや私たちの活動を伝えることができたことは大きな収穫でした。

今回整備を行った4か所の冬期自然採食地で、今冬のタンチョウの利用状況がどのように変化するのかを調べ、結果は皆さまにお伝えしたいと思います。(鈴木)

普及活動

■ タンチョウ・ティーチャーズガイド（TTG）講習会 in むかわ

10月3日にタンチョウ新規生息地のむかわ町で、タンチョウに興味関心を持ったり、理解を深めてもらう手法の1つである、TTG講習会の講師を務めました。32人の参加者は、TTGの3つのプログラムを体験後、その狙いや進行についての説明を受け、自分達が町内でタンチョウのことを伝えていくための方法を学びました。その後は班毎に分かれ「住民への普及」「農業との共存」「カメラマン対策」「地域振興」といったテーマで、むかわ町でタンチョウと人が共存していくために必要なことや現状の課題について話し合いました。



グループワークの様子

むかわ町は、タンチョウの繁殖地としては初めての水田地帯です。この町での取り組みは、今後の生息地分散に向け大変貴重な事例になるでしょう。地域の人達が課題と向き合い、タンチョウと共存していけるよう、これからもしっかりとサポートしていきます。（原田）



班毎に描いた実物大のタンチョウと参加者

親子 230 人が来場 釧路エコ・フェア

毎年恒例となった親子向け環境イベント「くしろエコ・フェア 2015」。6月6日にブース出展しました。今年は、来場者へタンチョウの魅力をより多く伝えられるよう、時間ごとに異なるプログラムを実施しました。ブースは終始親子で大賑わいとなり、230人の親子にタンチョウの魅力を伝えることができました。子供達は、タンチョウの動作や暮らしについて真剣に話に聞き入り、時には楽しみながらタンチョウについて学んでいました。親子で「冬になったらツルさん見に行こうね」などの会話が交わされ、タンチョウへの興味も深まったようです。（鈴木）



「タンチョウさんが転んだ」で大盛り上がり！

活動報告

■ D型倉庫 危機一髪

「このままだと倉庫つぶれるよ」。始まりは常連の農家さんの一言でした。給餌用のデントコーンなどを保管している蒲鉾型の倉庫の屋根が、今冬の湿雪による重みで、屋根が陥没したようです。そこで急遽、補修工事をするため、中国からの留学生や F.A. ネットワークの学生達と、倉庫内の片付けを行いました。学生達の協力もあり、中は工事車両が出入りできるほど広くなりました。工事は給餌が始まる前に終わり、今年度分のデントコーンを無事、搬入することができました。(鈴木)



これでこの冬もばっちり耐えられます

■ F.A. ネットワーク 夏のワークキャンプ

冬に続き、F.A. ネットワークのワークキャンプを受け入れました。8月26日から6日間、自然採食地の管理作業や倉庫周辺の廃材などの撤去、保護活動の歴史や現状を学ぶ野外セミナーを行いました。2tトラック2台分の廃材などの運び出しは大変でしたが、時折シマヘビなどもあらわれ、生き物好きの学生達は大喜び。倉庫や周辺は見違えるほどきれいになりました。野外セミナーでは、タンチョウや釧路湿原の保護活動の現場を見て回りました。ワークキャンプを通じて、学生からは「話や映像で見聞きしていたことを体験し、写真が現実になったみたいだ」「自然保護の考え方が変わった」などの感想があり、充実したワークキャンプになったようです。(鈴木)



こんなにさっぱりしました！

■ 第28期運営協議会の開催

8月7日に、28期目となる運営協議会を開催しました。当日は、サンクチュアリの運営の報告や、委員からのエゾシカ防護柵によるタンチョウの事故について報告がありました。タンチョウ保護に携わる関係者との情報や意見交換の場として、今後のタンチョウ保護活動について考えを深める貴重な機会となりました。引き続き、様々な機関や団体と連携しながら、タンチョウの保護活動を進めていきます。(鈴木)



14名の方に出席いただきました

■ネイチャーセンターが開館しました

10月からネイチャーセンターが開館しました。12月から3月半ば頃まで、多くのタンチョウが給餌場に集まります。当館では暖かい室内からタンチョウの姿を観察することができます。セルフサービスでコーヒーやお茶も用意しています。また、タンチョウの解説や、スライドショーも行っています。ぜひお立ち寄りください。



床暖房と薪ストーブの館内からタンチョウ観察を！

■給餌場と自然採食地のライブ映像を配信しています

給餌場の前にはカメラが設置してあり、ホームページから給餌場の様子をライブで見られます。自分でカメラを左右に動かしたり、ズームして見ることもできますので、今どのくらいタンチョウが来ているのか確認できます。また、サンクチュアリ1号採食地の様子（5分毎の静止画像）も見ることができます。詳しくはサンクチュアリのホームページをご覧ください。
(<http://park15.wakwak.com/~tancho/sizensaisyokuti.html>)



■図鑑「フィールドガイド 日本の野鳥」が新しくなりました



「フィールドガイド 日本の野鳥」の増補改訂新版が発売になりました。ページ数が増え内容の充実度が増したにも関わらず、従来のものより薄く軽くなりました。しおり紐も2本ついてより便利になりました。

今回新しくなった内容は、分布図や図版の修正、新しい確認種の追加などです。そして「ムシクイ科などの声一覧」も新たに加わりました。

当ネイチャーセンターの他、当会の通信販売（03-5436-2626）や一般書店で販売中です。

- 著：高野伸二（増補改訂新版 著：安西英明、叶内拓哉、田仲謙介、渡部良樹、図版：谷口高司）
- サイズ（約）：B6変型判●392ページ●630種収録（図版付きの種類数） ISBN978-4-931150-62-1
- 値段：3,888円（税込）

編集・発行 公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
〒085-1205 北海道阿寒郡鶴居村中雪裡南
TEL：0154-64-2620 FAX：0154-64-2239
E-mail：tancho_sanc@wbsj.org URL：http://www.wbsj.org
レンジャー 原田 修／鈴木 敏祥／本藤 真樹子



※ この通信紙は、当サンクチュアリ賛助会「タンチョウふぁんクラブ」や「タンチョウ 383 人の会」、ボランティアの方々へお送りしています。《ぴっけるぴっけとは？》「ツルと人とのかけはし」になりたいという思いから、土木工事用具の“つるはし”を連想。ドイツ語表記の Pickel（男性名詞）と Picke（女性名詞）をあわせました。